

顔面骨骨折

岡山赤十字病院形成外科では、下記のような顔面骨骨折の治療を行なっております。概ね2週間以内であれば治療が可能です。その様な患者さんがいらっしゃいましたら、お早めにご紹介ください。

鼻骨骨折

最も頻度が高い顔面骨折です。通常は外来で浸潤麻酔下に徒手整復を行います。小児などでは全身麻酔で行うこともあります。

頬骨骨折

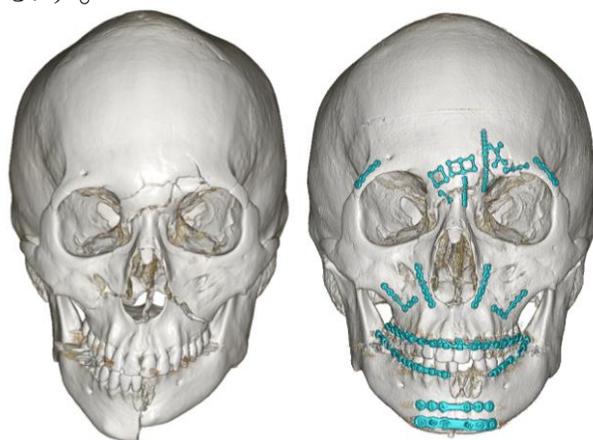
頬部の変形、頬部知覚鈍麻、開口障害などの症状が起こります。偏位や症状の程度によって、手術の必要性を判断します。全身麻酔下に整復し、チタンプレートや吸収性プレートで固定します。

眼窩骨折

眼球運動障害や複視、眼球陥凹が問題となります。小児などでは若木骨折で骨折部に外眼筋が絞扼されることがあり、強い嘔気や嘔吐を呈することがあります。この場合は緊急手術が必要となります。それ以外の場合は、2週間程度を目処に手術をします。手術の必要性は、眼科で眼球運動等を評価してもらいながら判断します。

上顎骨折

咬合のずれが問題になります。全身麻酔下に整復し、チタン製のプレートで固定します。咬合を合わせるために、顎間固定を行うこともあります。歯科と協力しながら治療を行います。



下顎骨折

上顎骨折と同様です。当院では下顎の関節突起骨折も積極的に手術を行っております。

